

2016年(平成28年)9月28日(水曜日)

果物と地酒味わうコース

増毛山道体験 トレッキング 10月に新企画

江戸時代末期に交易路として開削された「増毛山道」の復元ルートを歩く体験トレッキングを通して地域の魅力を広く愛好者らに伝えようと、復元事業に携わるNPO法人増毛山道の会(伊達東会長)は10月

22日に「秋のフルーツと国稀コース」と銘打った体験会を企画した。同法人事務局では「増毛の代名詞である果物と地酒を体感し、地域に興味を持ってもらうことと併せて山道への関心を深めてもらいたい」と話し

ている。

増毛山道は安政2年(1855年)に浜益、増毛両場所の請負人だった伊達林右衛門が、私費を投じて整備した全長32キロの山道。このうち増毛町別荘―岩尾間の約16キロを増毛山道の会が22年度に復元。翌年から体験トレッキングを行っている。

トレッキングに参加した愛好者らを対象とした地域イベントとして、同法人では25年に地元のボランティアをガイド役に、JR増毛

駅前から国の重要文化財である旧商家丸一本間などの観光名所を散策する「増毛町内歴史ウォーキング」を実施しているが、今回はより地域の魅力を前面に打ち出した事業を行い、来年度以降のトレッキングのあり方を検討するためのモデルケースとして企画した。

当日は今年最後の体験トレッキングとして行われ、管内のほか札幌や登別などから21人が参加予定。午前7時に別荘の山道入り口をバスで出発し、往復10キロ

トレッキングを実施。郵便物の中継や宿として利用された武好駅跡地や当時使われていた電信柱などの山道内の名所を見物する。

トレッキングは正午までに終了し、午後から町内の果樹園「千果園」(仙北剛久園主)で果物狩り、最北の酒蔵で知名度の高い国稀酒造株式会社で地酒の製造工程などを見学。参加者には土産として、千果園のフルーツ詰め合わせと「國稀」の季節限定酒をブレゼントする。(長谷見直也)